

第2 障がいのある人およびサービス提供体制の現状とニーズ等

1 障がいのある人等の現状

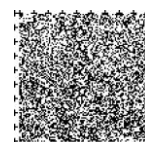
平成29年4月1日時点の身体障害者手帳，療育手帳および精神障害者保健福祉手帳の交付者数ならびに特定医療費（指定難病）受給者証交付者数・特定疾患治療研究事業給付（北海道指定）受給者数は，次のとおりです。

(1) 身体障害者手帳

（単位：人，％）

区 分		1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計	構成比
視覚障がい	18歳未満	4	0	0	1	2	0	7	7.4
	18歳以上	301	286	74	61	149	88	959	
	計	305	286	74	62	151	88	966	
聴覚・平衡 機能障がい	18歳未満	0	10	5	3	0	8	26	7.5
	18歳以上	64	208	141	220	3	311	947	
	計	64	218	146	223	3	319	973	
音声・言語・ そしゃく機能 障がい	18歳未満	—	0	0	0	—	—	0	1.0
	18歳以上	—	6	75	44	—	—	125	
	計	—	6	75	44	—	—	125	
肢体不自由	18歳未満	42	10	10	11	3	1	77	54.9
	18歳以上	1,113	1,304	1,629	2,170	581	250	7,047	
	計	1,155	1,314	1,639	2,181	584	251	7,124	
内部障がい	18歳未満	14	0	5	3	—	—	22	29.2
	18歳以上	2,698	27	414	635	—	—	3,774	
	計	2,712	27	419	638	—	—	3,796	
計	18歳未満	60	20	20	18	5	9	132	100.0
	18歳以上	4,176	1,831	2,333	3,130	733	649	12,852	
	計	4,236	1,851	2,353	3,148	738	658	12,984	
構 成 比		32.6	14.3	18.1	24.2	5.7	5.1	100.0	

（資料：函館市福祉事務所）



(2) 療育手帳

(単位:人,%)

区 分	A (重度)	B (中・軽度)	計	構成比
18歳未満	101	446	547	19.5
18歳以上	936	1,322	2,258	80.5
計	1,037	1,768	2,805	100.0
構成比	37.0	63.0	100.0	

(資料:函館市福祉事務所)

(3) 精神障害者保健福祉手帳

(単位:人,%)

区 分	1 級	2 級	3 級	計	構成比
18歳未満	1	4	2	7	0.3
18歳以上	228	1,692	705	2,625	99.7
計	229	1,696	707	2,632	100.0
構成比	8.7	64.4	26.9	100.0	

(資料:函館市福祉事務所)

(4) 特定医療費(指定難病)受給者証・特定疾患治療研究事業給付
(北海道指定)

(単位:人,%)

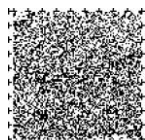
区 分	人 数	構成比
特定医療費(指定難病)受給者証交付者数	2,264	92.3
特定疾患治療研究事業給付(北海道指定)受給者	189	7.7
計	2,453	100.0

(資料:市立函館保健所)

※ 平成 26 年度との比較

(単位:人)

区 分	平成 26 年度 (A)	平成 29 年度 (B)	増 減 (B-A)
身体障害者手帳	13,664	12,984	-680
療育手帳	2,546	2,805	259
精神障害者保健福祉手帳	2,286	2,632	346
特定医療費(指定難病)受給者証等	2,328	2,453	125
計	20,824	20,874	50



2 主なサービス提供基盤の整備状況

市内の主なサービス提供基盤の整備状況は、次のとおりです。

(1) 【訪問系サービス】

(単位：か所)

区 分	事業所数			
	H26. 4. 1	H27. 4. 1	H28. 4. 1	H29. 6. 1
居宅介護	45	44	45	41
重度訪問介護	37	38	39	38
同行援護	19	17	18	17
行動援護	1	2	2	2
重度障害者等包括支援	0	0	0	0

(2) 【日中活動系サービス】

(単位：か所，人)

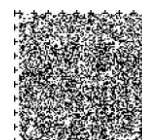
区 分	H26. 4. 1		H27. 4. 1		H28. 4. 1		H29. 6. 1	
	事業所数	定員	事業所数	定員	事業所数	定員	事業所数	定員
生活介護	13	538	14	558	16	590	16	580
自立訓練（機能訓練）	1	10	1	10	1	10	1	10
自立訓練（生活訓練）	5	44	5	44	6	78	4	38
自立訓練（宿泊型）	1	20	1	20	3	55	1	20
就労移行支援	5	116	5	116	6	136	7	156
就労継続支援（A型）	5	65	7	115	5	85	5	85
就労継続支援（B型）	18	429	18	429	24	569	26	609
療養介護	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所	10	19	10	19	10	19	11	23

(3) 【居住系サービス】

(単位：か所，人)

区 分	H26. 4. 1		H27. 4. 1		H28. 4. 1		H29. 6. 1	
	事業所数	定員	事業所数	定員	事業所数	定員	事業所数	定員
共同生活援助	20	150	24	170	25	190	27	205
	29	194	32	207	33	227	35	244
施設入所支援	6	348	6	348	6	348	6	348

※ 共同生活援助の上段は函館市が指定した事業所数と定員数，下段は函館市内にある事業所数と定員数



(4) 【相談支援】

(単位：か所)

区 分	事業所数			
	H26. 4. 1	H27. 4. 1	H28. 4. 1	H29. 6. 1
計画相談支援	7	8	9	10
地域移行支援	4	4	4	4
地域定着支援	4	4	4	4

(5) 【障がい児支援】

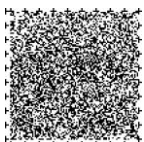
(単位：か所, 人)

区 分	H26. 4. 1		H27. 4. 1		H28. 4. 1		H29. 6. 1	
	事業所数	定員	事業所数	定員	事業所数	定員	事業所数	定員
児童発達支援	4	70	5	80	9	120	10	130
医療型児童発達支援	1	20	1	20	1	20	1	20
放課後等デイサービス	9	90	17	170	24	240	32	330
保育所等訪問支援	1	—	2	—	2	—	2	—
障害児相談支援	6	—	7	—	8	—	9	—

(6) 【地域生活支援事業】

(単位：か所)

区 分	事業所数			
	H26. 4. 1	H27. 4. 1	H28. 4. 1	H29. 6. 1
障害者相談支援事業	2	2	2	2
基幹相談支援センター事業	—	1	1	1
移動支援事業	21	19	18	15
地域活動支援センター	8	8	6	6
障害児等療育支援事業	1	1	1	1
福祉ホーム	1	1	1	1
訪問入浴サービス事業	4	4	4	4
日中一時支援事業	27	27	27	26



3 障がい福祉サービス等の利用状況と利用意向調査の概要

(1) 調査の概要

ア 調査の目的

第5期函館市障がい福祉計画の策定にあたり、障がいのある方々の意向を把握し、今後の障がい福祉サービス等の見込み量推計の基礎資料とするため実施しました。

イ 調査対象者

函館市内に居住する方で、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費（指定難病）受給者証を交付されている方および特定疾患治療研究事業の給付を受けられている方を対象とし、障がい別に統計学上必要な標本数を算定し、それぞれ無作為に抽出しました。

ウ 調査方法

調査票は、郵送により配布し、調査票の記入は、本人、本人の家族、家族以外の介助者等としました。

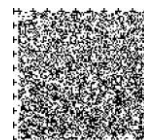
調査票は、プライバシー保護の観点から無記名とし、返信用封筒を同封のうえ、郵送により回収しました。

エ 調査実施期間等

基準日を平成29年6月1日とし、調査は平成29年6月12日から6月30日までの期間で実施しました。

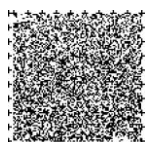
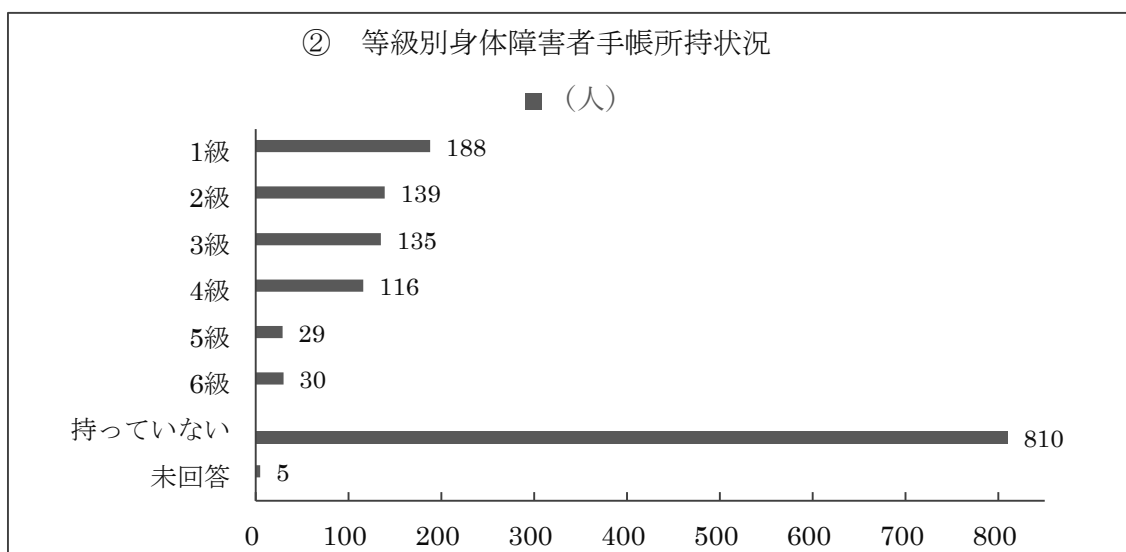
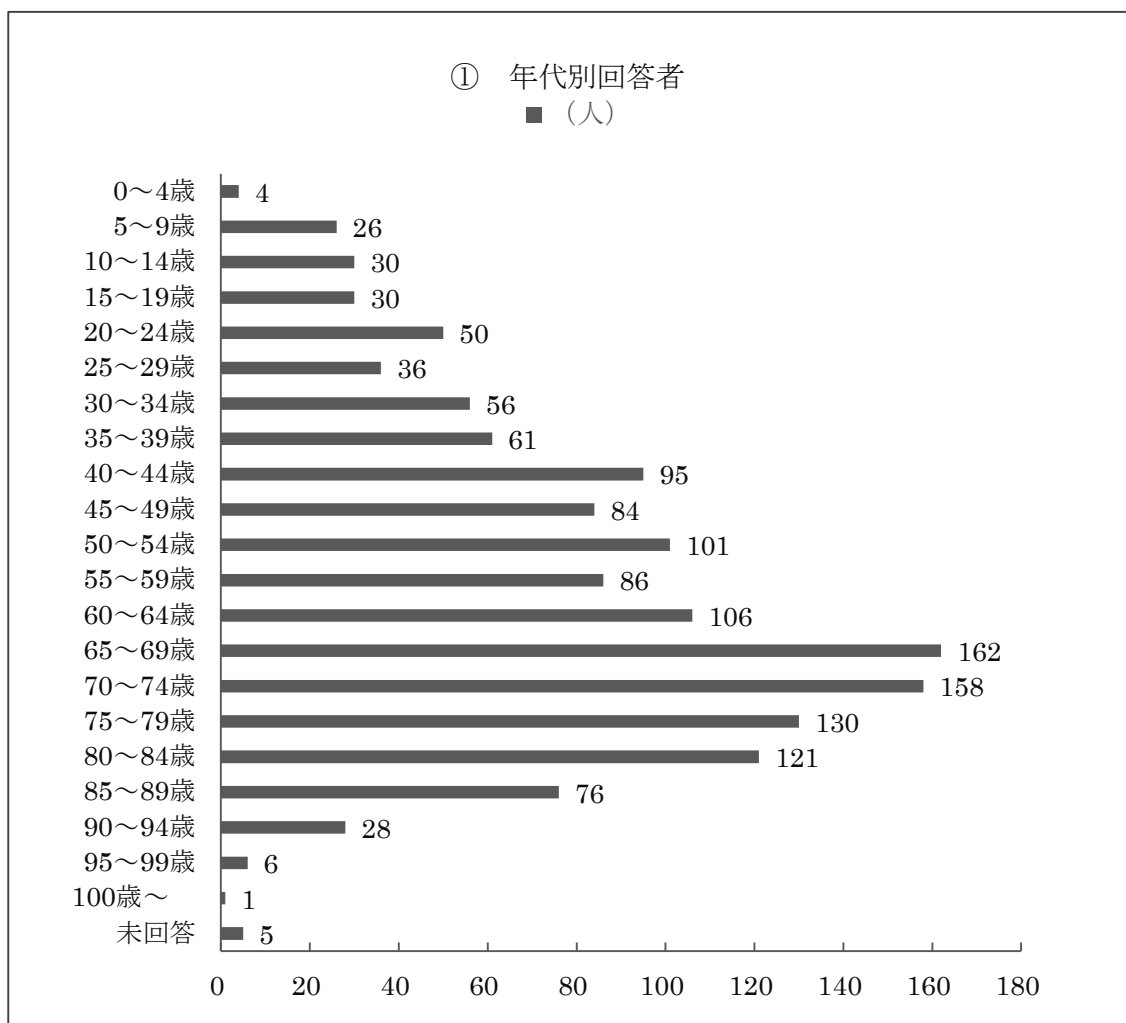
オ 回収結果

調査区分	対象者（人）	回答者（人）	回答率（％）
身体障がい者	801	448	55.9
知的障がい者	720	324	45.0
精神障がい者	735	324	44.1
難病患者	711	356	50.1
計	2,967	1,452	48.9

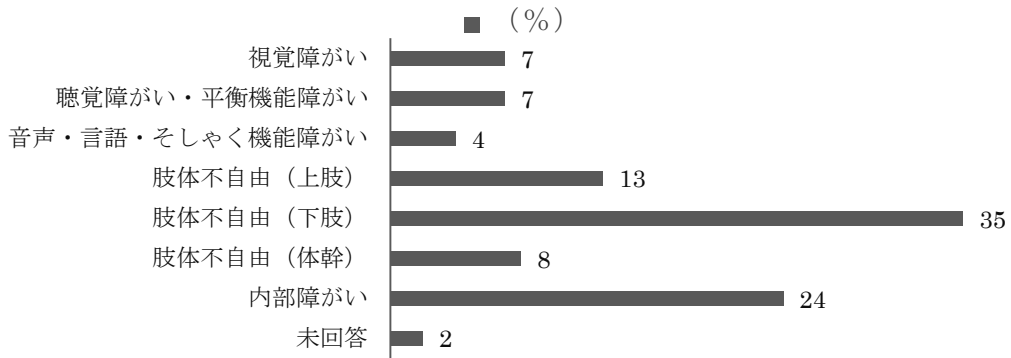


(2) 調査結果の概要

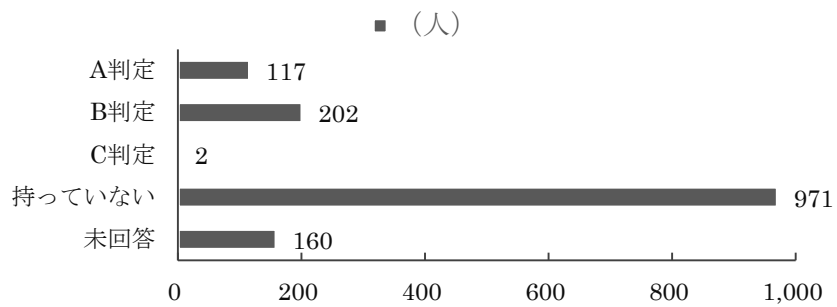
ア 回答者の属性



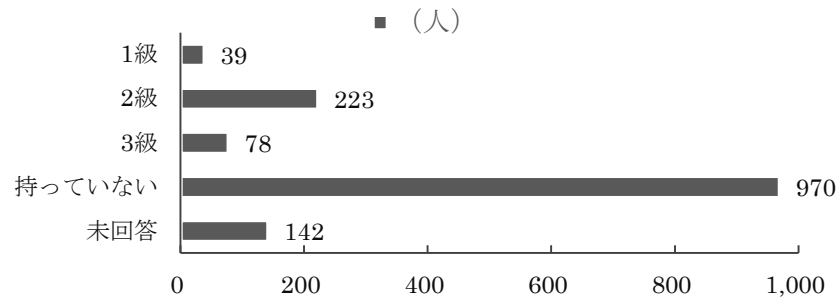
③ 障がい別身体障害者手帳所持状況



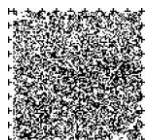
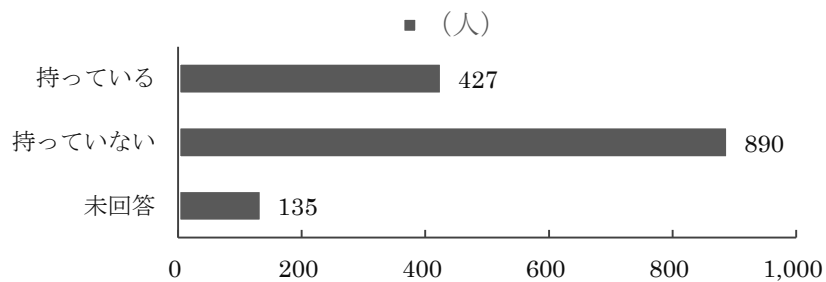
④ 判定別療育手帳所持状況



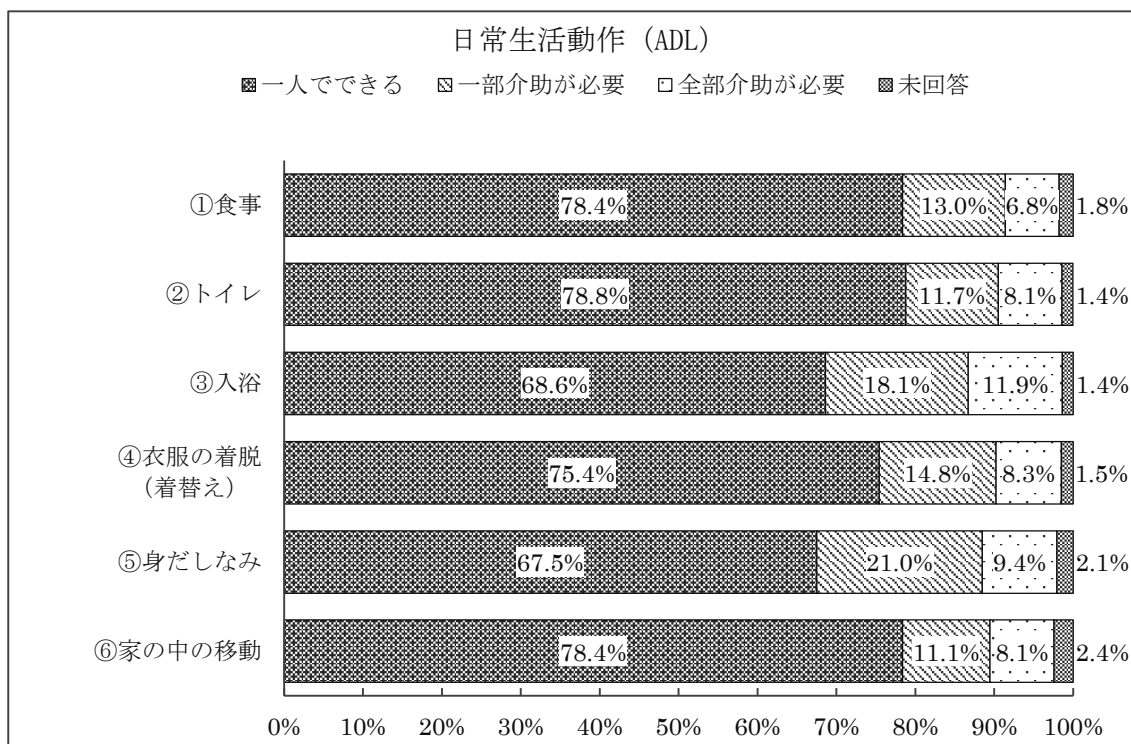
⑤ 等級別精神障害者保健福祉手帳所持状況



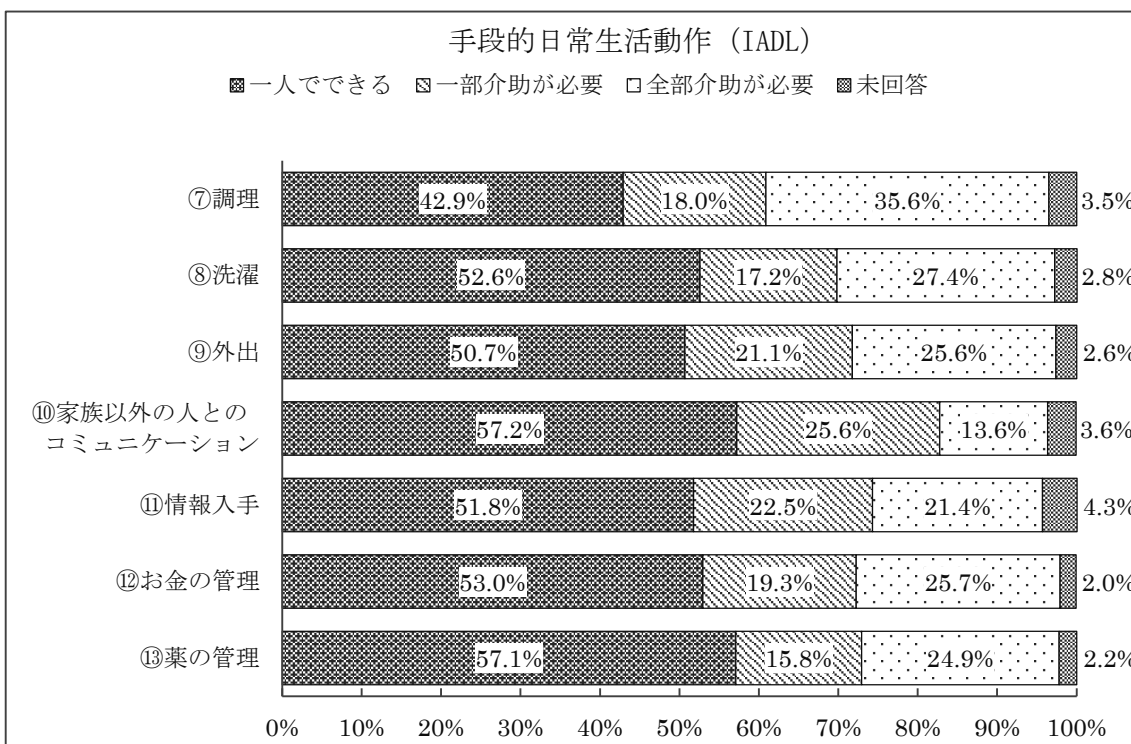
⑥ 特定医療費（指定難病）受給者証または特定疾患治療研究事業給付受給者証の有無



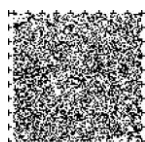
イ 日常生活動作（ADL）と手段的日常生活動作（IADL）



【日常生活動作（ADL）】 普段何気なくおこなっている生活するうえでの最低限の基本的動作のことを言います。

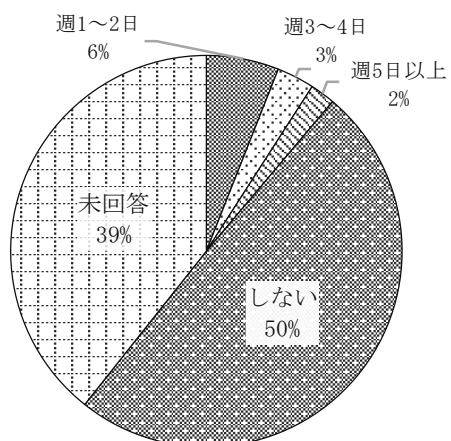


【手段的日常生活動作（IADL）】 ADLよりさらに自立するために必要な生活での動作のことを言います。

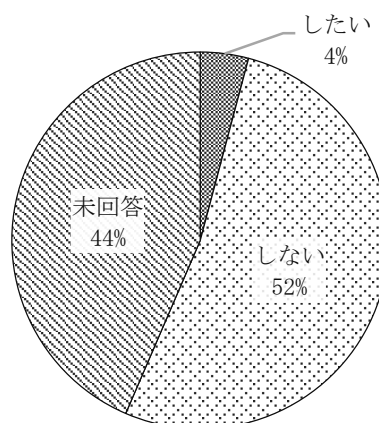


ウ 障がい福祉サービス等の利用希望

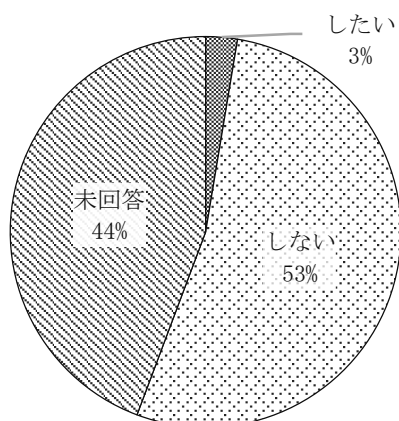
① 居宅介護（ホームヘルプ）



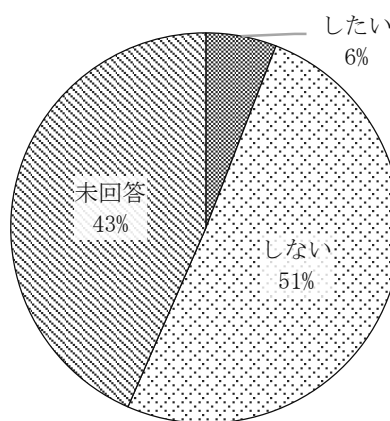
② 重度訪問介護



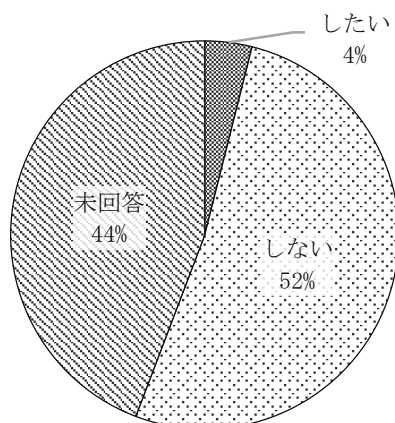
③ 同行援護



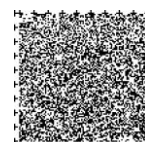
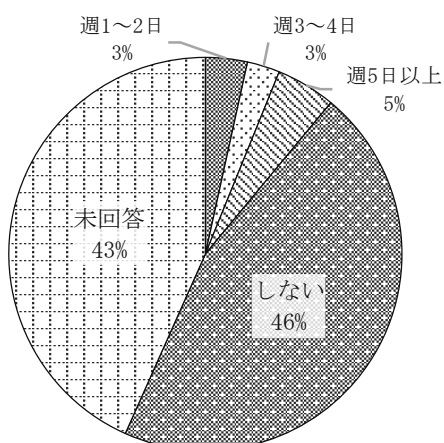
④ 行動援護



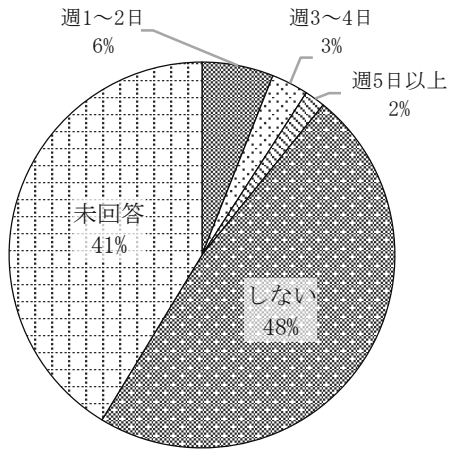
⑤ 重度障害者等包括支援



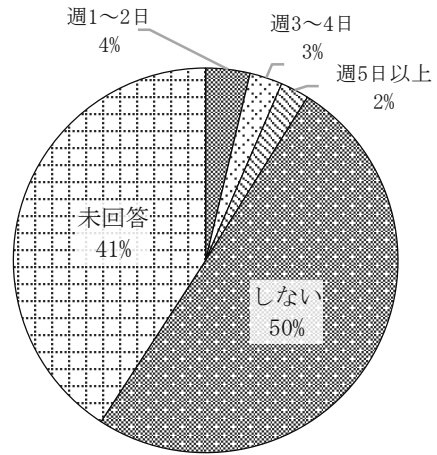
⑥ 生活介護



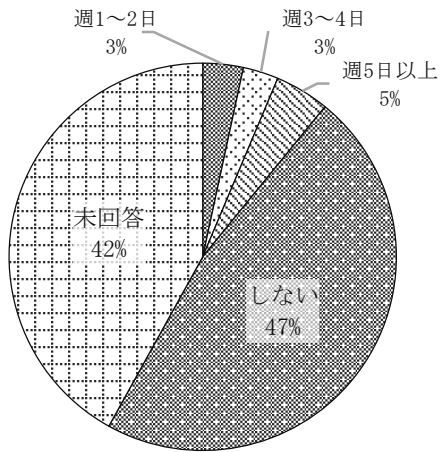
⑦ 自立訓練（機能訓練・生活訓練）



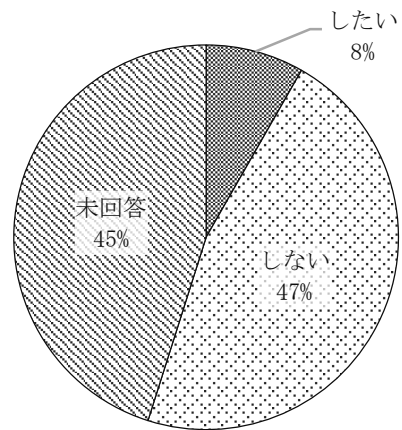
⑧ 就労移行支援



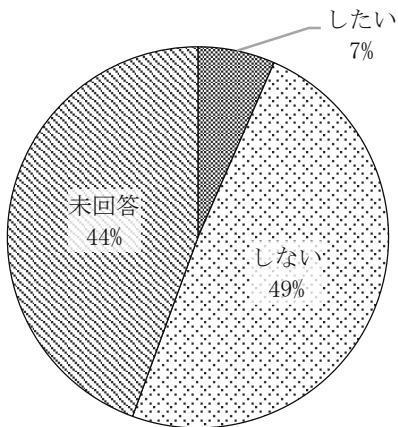
⑨ 就労継続支援（A型・B型）



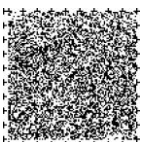
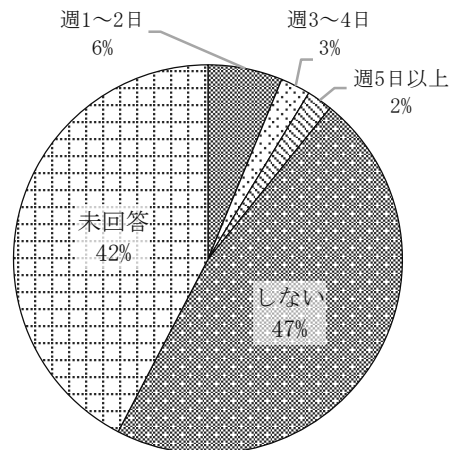
⑩ 就労定着支援



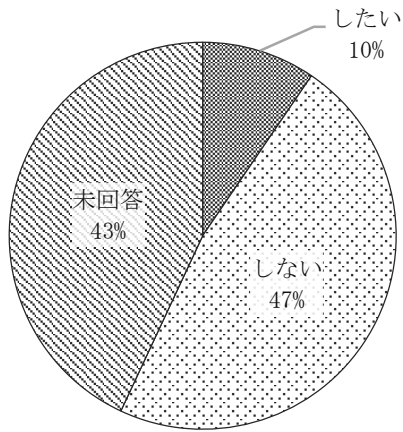
⑪ 療養介護



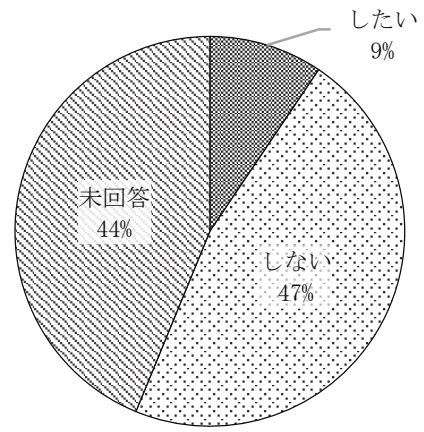
⑫ 短期入所（ショートステイ）



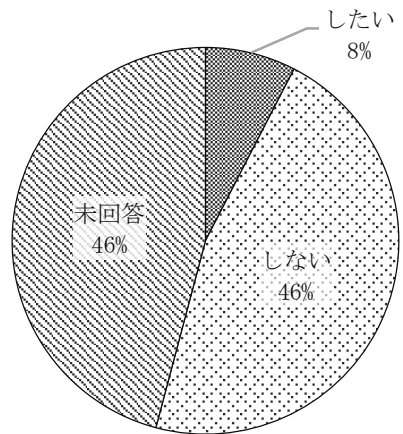
⑬ 共同生活援助（グループホーム）



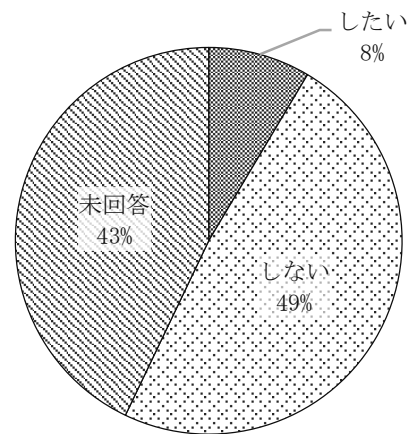
⑭ 施設入所支援



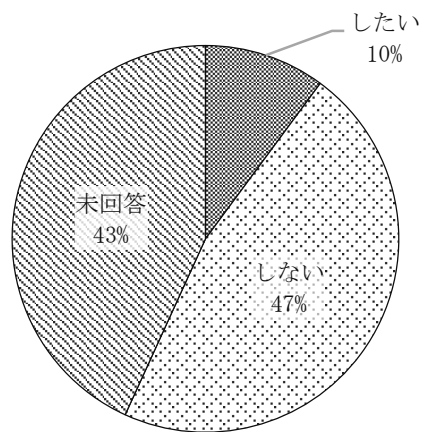
⑮ 自立生活援助



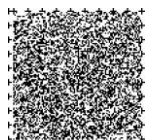
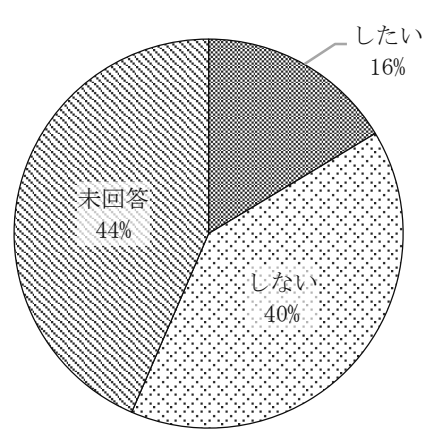
⑯ 地域移行支援



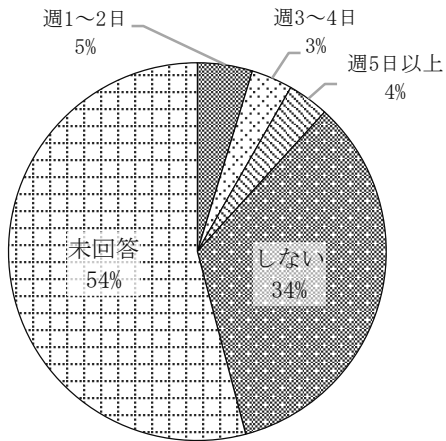
⑰ 地域定着支援



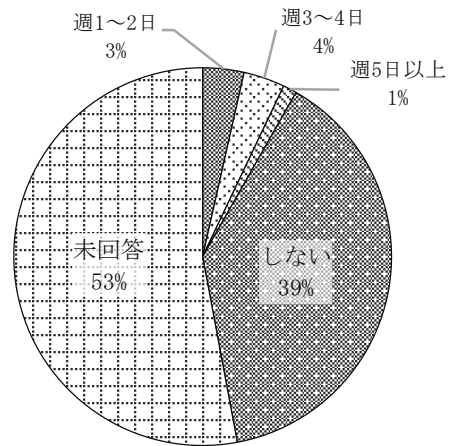
⑱ 計画相談支援



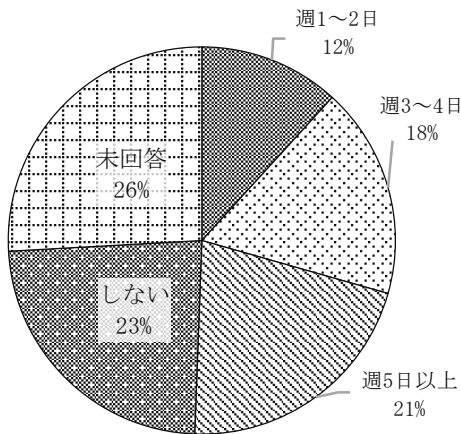
⑱ 児童発達支援



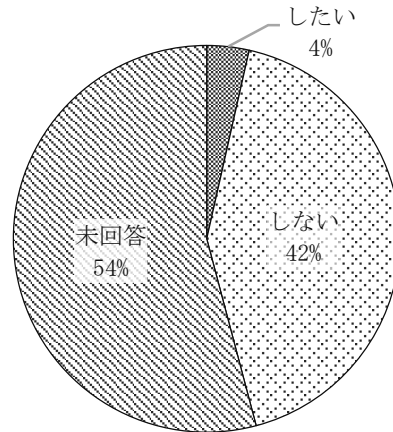
⑳ 医療型児童発達支援



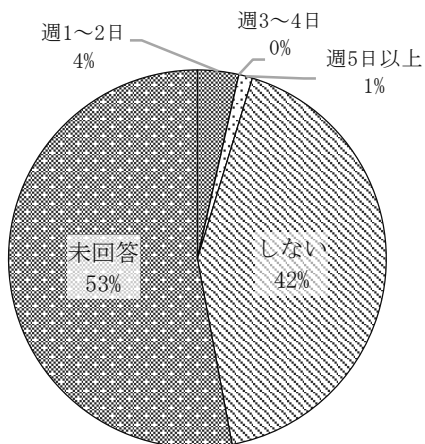
㉑ 放課後等デイサービス



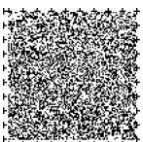
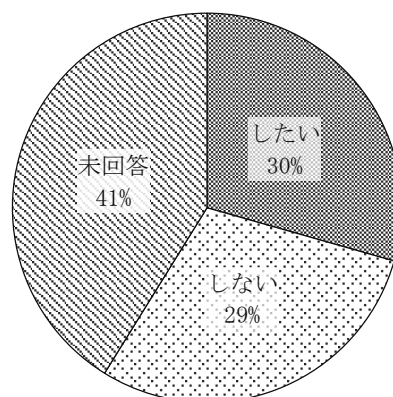
㉒ 保育所等訪問支援



㉓ 居宅訪問型児童発達支援



㉔ 障害児相談支援



エ 主な自由記載について

全 371 件の自由記載の中で「障がい者基本計画の施策の推進方向」の観点から、「ニーズ」としてとらえることができるもの 77 件を、10 のカテゴリーに分類し、障がい者等に対する理解促進を目的として、障がいのある人やその家族等が、現在、何に対して不満や不安を感じ、何を必要としているのかを知ってもらうことにつながると考えられるものの中から、19 件を抽出しました。

施策の充実（20 件）

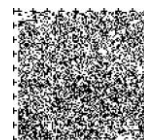
- ・ 子供の預け先がなく就職が出来ません。障がいのある子供や医療が必要な子供の親が安心して働き、生活の向上が図れるような取り組みを考えてほしいです。
- ・ 本が好き。ぼくにも探しやすい図書館がほしい。情報がいっぱいあるから楽しい場所。好きな図鑑や歴史の本などたくさん置いてください。作業が好きだから、みんなで集まってレゴ大会する会やアイロンビーズを作る会があったら楽しいな。作品も飾ってほしい。ぼくにもこんなことができるんだって知ってもらえるからね。
- ・ 医療的ケア児に対応できる放課後等デイサービスが増えるよう、市からも働きかけをお願いしたい。

手続きの簡素化（15 件）

- ・ 障がい者および難病患者に対する各種支援サービス等に関し、更新手続き等の際の手続き書類および添付書類等用意する事が大変な場合があるため、それらの手続きの簡素化や免除等できないものか検討をお願いしたく存じます。
- ・ 毎年の更新など、窓口への手続きが不便だと思う。せっかくマイナンバーがあるのだから、一つの窓口で介護、特定医療費、重度障がい者の手続きが済むと助かります。

普及啓発・理解促進（11 件）

- ・ 一般の方々の障がい者への対応・偏見の態度が見られるように思えます。健常者の方が自分がそんな立場になった時の事を考えて欲しいと思います。
- ・ 障がいのことを理解してくれる企業が少ない。
- ・ 障がい者は（または難病患者）交通機関を利用する時、いつも感じている事、周囲の目はすごく冷たい……。まだまだ障がい者に対して、差別や偏見が感じられます。自分より弱い人の事を考えられるようにもっと温かい目で見たい。
- ・ 難病患者にもっと理解を持った社会を作りたい。特別扱いではなく、理解されたいのです。



物理的，制度的なバリア解消（10件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者サービスを利用するためのハードルが高い。短期入所なども個室など条件が合わず遠い施設しか利用できず，送迎の負担（事故の心配等）が大きいいため，利用をガマンしています。 ・ 障がい者用の駐車スペース等を勝手に使用している健常者に対する対策をして欲しい。
就労機会の保障（5件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいがあることを理由に就職を断られた経験があるので，障がいの有無に関係なく就労できるよう，対策をして欲しい。
将来への不安（5件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ お父さんとお母さんがいなくなったら，ぼくはどうしたらいいのか心配です。（代筆） ・ 両親とも後期高齢者になり，将来の事はとても不安です。集団の場での宿泊は皆に迷惑になると思えば，なんとしても自分達が動けるうちは面倒見ていこうと思っています。常に息子の事を考え悩み不眠に苦しんでいる親です。
制度の公平性（4件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 函館市，北海道の自閉症や軽度の発達障がいの判定の認識が甘い，遅れている。全国共通の判定がなされていないのは不公平！としか言いようなし。 ・ 精神障がいなのですが，自立支援のための施設が遠すぎるので，行きたいと思ってもマップを見ると行く気がなくなる。
合理的配慮の提供（3件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般の企業で働くための，周囲の配慮がもっと必要だと思う。外見ではわからない障がいもたくさんある。ほんの少しの助けがあれば，働くことが出来ると思う。
QOLの向上（2件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行やドライブ等に行きたいが，一人では無理です。家族もなかなか連れて行くことが難しいです。
制度の周知の充実（2件）
<ul style="list-style-type: none"> ・ サービスの利用内容など個人で調べないと分からない。情報が少ないと感じる。

